

全体評価

項目別評価

令和3年度評価

大項目4項目全てについて、中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいると認められ、**全体として、中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進捗している**と評価した。

特に、「I 患者にとって最適な医療の提供」では、新型コロナウイルス感染症への対応により入院病床の逼迫や医療従事者の確保が難しい中でも、救急搬送において総合・西和とも高い実績を残し、**県内の救急医療体制の充実に大きく貢献した**。また、新型コロナウイルス感染症への対応が必要な中、周産期、小児、糖尿病など、**政策医療の分野においても、県内の医療体制に支障が出ないよう体制確保に大きな役割を果たした**ことは特に評価できる。

「III 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成」では、新型コロナウイルス感染症への対応により業務量が増加しているものの、働き方改革実行プロジェクト委員会や働き方委員会における働き方改革への取組により、大幅に超過勤務時間が増加することはなかった。ワークライフバランスの推進に向け、継続的な取組をお願いしたい。障害者雇用では、**専任の職員を配置**する等の取組を行い、**障害者の追加雇用に繋がったが、法定雇用率を下回っているため、引き続き多様な取組が求められる**。

また、「IV 自立した経営」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、一般病床数が制限されていた中でも、平均在院日数の短縮や入院単価の上昇等により**医業収益が増加**したため医業収支比率は目標を達成。持続可能な経営基盤の確立に向け本業で稼ぐ力を伸ばす取組を継続していただきたい。また、**法人理念・中期目標の職員への浸透・共有を推進**し、病院機構の職員が一丸となって第2期中期目標の達成に向け取り組んでいただきたい。

1)	患者にとって最適な医療の提供	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて 順調に進んでいる 中項目11項目中、 2項目をS、9項目をA としたことを勧奨	
2)	地域の医療力向上への貢献	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて 順調に進んでいる 中項目4項目中、 4項目をA としたことを勧奨	
3)	最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて 順調に進んでいる 中項目3項目中、 3項目をA としたことを勧奨	
4)	自立した法人経営	IV	中期目標・中期計画の達成に向けて 順調に進んでいる 中項目4項目中、 3項目をA、1項目をB としたことと勧奨	

中項目	取組項目	自己評価	県評価
		R3	R3
1 患者の視点に立った医療サービスの提供	①高度専門医療の提供 ②チーム医療の推進 ③医療の質の標準化・透明化 ④医療の質の評価 ⑤患者及びその家族へのサービスの向上	A	A
地域の医療拠点としての機能の充実			
①断らない救急医療の充実	①救急患者受入体制の充実強化	S	S
②質の高いがん医療の充実	①がん診療機能の充実 ②緩和ケアの推進	A	A
③周産期医療の充実	①ハイリスク妊婦及び新生児の受入体制の強化	A	A
④小児医療の充実	①小児救急患者の積極的受入 ②発達障害児に対する医療提供体制の充実	A	A
⑤糖尿病医療の充実	①糖尿病専門医による治療の推進	A	A
⑥精神医療の充実	①精神科救急・身体合併症患者に対する医療の充実	A	A
⑦感染症医療の充実	①感染症医療の充実強化	S	S
2			
3 リハビリテーション機能の充実	①急性期リハビリテーション提供体制の充実 ②回復期リハビリテーション及び退院後のフォローアップのための外来リハビリテーション提供体制の充実、強化	S	A
4 医療安全の確保・院内感染の防止	①医療安全対策の徹底 ②院内感染防止対策の徹底	A	A
5 西和医療センターのあり方の検討	①王寺駅周辺地区への移転を含めた再整備方針の検討 ②地域密着型医療の提供	A	A
地域の医療機関との役割分担と連携強化			
1 地域の医療機関との役割分担と連携強化	①地域の開業医等との連携体制の推進 ②医療機関や福祉施設との連携強化 ③地域包括ケアシステムへの参画	A	A
2 地域の医療機能の向上のための支援	①地域医療従事者の資質向上 ②地域医療を支える看護師の養成	A	A
3 災害医療体制の強化	①災害拠点機能の充実 ②被災時の院内体制の強化	A	A
4 県民への医療・健康情報等の提供	①県民への病院・医療情報等の発信	A	A
最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成			
1 最高レベルの医の心をもった人材の確保・育成	①職員のホスピタリティマインドの実践 ②医療専門職としてのプロフェッショナルリズム教育・研修の強化	A	A
2 最高レベルの医の技をもった人材の確保・育成	①職員のスキル・能力向上に向けた教育・研修体制の強化 ②医療プロフェッショナルの養成 ③職員の臨床研究の支援 ④研修医の教育研修体制の充実 ⑤専攻医の教育研修体制の充実 ⑥看護専門学校における質の高い看護師の養成	A	A
3 働き方改革の推進	①働きやすい職場づくり ②働きがいのある職場づくりの推進 ③職場における健康確保対策の推進	A	A
自立した法人経営			
1 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立	①内部統制体制の充実・強化	A	B
持続可能な経営基盤の確立			
①財務内容の改善	①経営基盤強化対策の着実な実施	A	A
2 ②収益の確保と費用構造改革の徹底	①経営指標の分析に基づく改善の実施 ②業務の効率化・適正化の推進	A	A
3 経営感覚・改革意欲に富んだ人材の確保・育成	①経営情報等の共有と経営参画意識の向上 ②計画的な人材確保と人員配置	A	A

奈良県立病院機構第2期中期目標・中期計画に関する令和3年度評価結果

評価結果

奈良県立病院機構第2期中期目標（R1～R5）で定める実現目標（KPI）134項目（単体）の令和3年度の実現状況。

大項目	R3年度					R2年度					R3年度－R2年度				
	S	A	B	C	－	S	A	B	C	－	S	A	B	C	－
I 患者にとって最適な医療の提供	18	23	6	1	0	15	26	5	2	0	+3	△3	+1	△1	+0
II 地域の医療力向上への貢献	9	11	13	3	6	8	8	10	9	7	+1	+3	+3	△6	△1
III 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成	8	7	6	2	0	10	7	3	1	2	△2	+0	+3	+1	△2
IV 自立した法人経営	13	6	2	0	0	6	10	4	1	0	+7	△4	△2	△1	+0
合計	48	47	27	6	6	39	51	22	13	9	+9	△4	+5	△7	△3

- ・評価S：年度目標を上回って実施している
 - ・評価A：年度目標を十分に実施している（達成率が概ね90%以上）
 - ・評価B：年度目標を十分に実施していない（達成率が概ね60%以上90%未満）
 - ・評価C：年度目標を大幅に下回っている、又は年度目標を実施していない
- ※その他コロナ禍の影響による取組の中止等により評価が不可能だったものについて「－」とした

注目される主な項目

I 患者にとって最適な医療の提供

中項目	目標	R3目標	R3実績	県評価
救急	○救急搬送受入率100%達成を目指す【総合・西和】	総合 97% 西和 70%	総合 88.9% 西和 65.3%	S
	○北和・西和地域における重症以上の傷病者搬送事案において、医療機関の受入の照会を行った回数4回以上の割合の改善（低下）【総合・西和】	総合・西和 2%	総合・西和 4.5%	
がん	○院内がん治療件数の増加 ・悪性新生物手術・外来化学療法【総合・西和】 ・放射線治療【総合】	総合 1,200件 西和 400件 総合 7,500件 西和 800件 総合 12,000件	総合 1,115件 西和 512件 総合 9,369件 西和 794件 総合 12,824件	A
	○がん医療における高難度（E・D難度）手術の実施件数の増加【総合】	980件	1,028件	
	○ハイリスク妊婦の県内搬送率100%達成を目指す【総合】	100%を目指す	100%	
	○新生児の県内搬送率100%達成を目指す【総合】	100%を目指す	97.7%	
小児	○小児患者の救急搬送受入率100%達成を目指す【総合・西和】	総合 100% 西和 100%	総合 95.9% 西和 88.5%	A
糖尿病	○糖尿病専門医による治療患者数の増加【総合・西和】	総合 5,000人 西和 550人	総合 6,415人 西和 662人	A
感染症	○感染症患者入院要請応需率100%の維持【総合】	100%	100%	S
患者サービス向上	○患者調査で「満足」と回答した割合（入院・外来別）の向上	入院 93% 外来 84%	入院 92.2% 外来 85.9%	A
	○患者調査で診療待ち時間について「不満」と回答した割合の改善（低下）	総合 15% 西和 10% リハ 1%	総合 14.2% 西和 15.9% リハ 13.9%	
	○患者調査で「安心して医療を受けられた」と回答した割合（入院・外来別）の向上	入院 93% 外来 86%	入院 92.1% 外来 89.5%	

II 地域の医療力向上への貢献

中項目	目標	R3目標	R3実績	県評価		
連携	○患者の紹介率（入院・外来別）の向上	入院	総合 50% 西和 90%	総合 35.1% 西和 57.4%	A	
		外来	総合 80% 西和 75%	総合 80.0% 西和 73.4%		
		○患者の逆紹介率（入院・外来別）の向上	入院	総合 285% 西和 300%		総合 300.9% 西和 316.0%
			外来	総合 80% 西和 80%		総合 99.0% 西和 67.0%
	○平均在院日数（一般病床）の短縮【総合・西和】		総合 11.0日 西和 11.5日	総合 10.6日 西和 11.2日		

コメント

- ・コロナ禍の中、救急搬送患者の積極的な受入により、救急搬送受入率が総合で奈良・西和地域でトップ、総合・西和とも目標値の90%を超える実績を残した。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応により入院病床の逼迫や、医療従事者の確保が難しい中、高度医療、政策医療の分野に積極的に取り組み、地域医療の拠点として患者にとって最適な医療の提供を継続した。
- ・高難度医療の提供に取り組み患者負担の軽減、早期社会復帰に繋げたことや、チーム医療を推進し看護師外来の受診者数の増加に繋げることで患者サービスの向上に取り組んだ。
- ・医療安全ニュース等でヒヤリハット報告の啓発に努めることで、アクシデントの発生を前年より低下させるなど、医療安全対策の徹底を図った。

課題と今後の方針

- ・来年度は第2期中期目標の集大成となるため新型コロナウイルス感染症対策と通常医療の両立に引き続き取り組んでいただきたい。
- ・患者サービス向上のため様々な施策が講じられている。今後も多角的な視点から取り組むことで患者満足度の向上に努め、患者にとって最適な医療の提供を継続していただきたい。

コメント

- ・救急ネットワークのWEB運用や地域医療機関とのリモートによる転院調整会議、地域連携クリニカルパスの活用を進め、地域医療提供体制の維持に大きく貢献した。

課題と今後の方針

- ・地域における役割を踏まえ、引き続き、患者負担軽減、平均在院日数の短縮に繋がる医療提供に貢献してほしい。

課題となる項目

Ⅲ 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成

中項目	目標	R3目標	R3実績	県評価	
働き方改革	○職員調査で「仕事にやりがいを感じている」と回答した割合の向上	65%以上	55.7%	A	
	○職員調査で「ワークライフバランスが図れている」と回答した割合の向上	60%以上	49.2%		
	○男性の育児休業取得率の向上	2人以上	9人		
	○年次有給休暇取得日数の増加	総合 8日	総合 11.0日		
		西和 7日	西和 9.3日		
		リハ 10日	リハ 9.1日		
	○復職支援実習の参加人数の増加	2人	0人		
	○看護師在職率の維持	離職率 10%	離職率 6.63%		
	○超過勤務の縮減	医師	総合 29.0 西和 26.0 リハ 2.0		30.5時間 総合 36.0 西和 29.5 リハ 4.1
		看護師	総合 11.0 西和 10.0 リハ 7.0		13.3時間 総合 13.7 西和 13.7 リハ 9.1
その他医療従事者		総合 16.0 西和 16.0 リハ 9.0	10.4時間 総合 11.1 西和 8.5 リハ 13.6		
事務		総合 20.0 西和 22.0 リハ 9.0	19.3時間 総合 12.5 西和 23.9 リハ 17.4		
○障害者雇用率の向上	2.6%以上	2.38%			

コメント

- ・新型コロナウイルス感染症への対応により業務量が増加しているものの、働き方改革実行プロジェクト委員会や働き方委員会における、働き方改革への取組により大幅に超過勤務が増加することはなかった。
- ・一方で、コロナ禍による業務の拡大が影響し、「ワークライフバランスが図れている」と回答した職員の割合は、目標を達成できなかった。ワークライフバランスの推進に向け多角的な視点から取り組みを継続してほしい。
- ・障害者雇用率が法定雇用率を下回っているが、法人本部に専任の職員を配置し、関係機関の協力のもと、令和3年6月～令和4年3月の期間に7名を追加雇用した。

課題と今後の方針

- ・障害者雇用率は、コロナの感染拡大防止のため障害者の病院見学の回数減少が影響。しかし、すべての事業主に法定雇用率（2.6%）以上で障害者を雇用する義務があることから引き続き雇入れ計画の策定など多様な取組の継続が求められる。

Ⅳ 自立した法人経営

中項目	目標	R3目標	R3実績	県評価
ガバナンス	○職員の中期目標・中期計画の理解度100%を目指す	70%	48.2%	B
財務内容の改善	○経常収支比率の改善（上昇）	98.40%	105.7%	A
	○繰越欠損金の縮減	153.5億円	110.6億円	
	○医業収支比率の改善（上昇）（医業収益/医業費用）	総合 74.3%	総合 89.0%	
西和 74.9%		西和 82.0%		
リハ 93.4%		リハ 94.0%		
収益の確保と費用構造の徹底	○医業収益に対する材料費比率の改善（低下）	総合 40.7%	総合 35.0%	A
		西和 29.5%	西和 26.1%	
		リハ 10.1%	リハ 10.1%	
	○医業収益に対する職員給与費比率の改善（低下）（職員給与費/医業収益）	総合 59.1%	総合 54.8%	
		西和 70.9%	西和 70.3%	
		リハ 72.5%	リハ 79.9%	
○医業収益に対する経費比率の改善（低下）	総合 21.8%	総合 17.4%	A	
	西和 24.3%	西和 23.0%		
	リハ 18.0%	リハ 19.3%		

コメント

- ・来年度に第2期中期目標の最終年度を迎え、目標達成に向かっていくためにも職員の法人理念・中期目標への理解は必要である。あらゆる機会を通して職員の理解を深めるとともに、職員の理解度の把握に努める必要がある。
- ・高度医療の増加等による材料費の上昇や、職員数の増加等による給与費の増加により医業費用が増加。しかし、新型コロナウイルスの影響により一般病床が制限されていた中でも、平均在院日数の短縮や入院単価の上昇等により医業収益が増加したため医業収支比率は目標を達成。持続可能な経営基盤の確立に向け本業で稼ぐ力を伸ばす取組を継続していただきたい。

課題と今後の方針

- ・法人理念・中期目標の職員への浸透・共有を推進し、病院機構の職員が一丸となって第2期中期目標の達成に向け取組んでいただきたい。
- ・本部主導の下、指標等に基づき院内の議論を深め、具体的改善策を検討している。さらなる経営改善に繋がるよう、引き続き取組を進めていただきたい。

【県立病院機構 第2期中期目標】

大項目	中項目	目標	令和3年度目標 (年度計画)	番号	令和3年度 実績値	自己評価	県評価	県からのコメント			
I 患者にとって最適な医療の提供	1 患者の視点に立った医療サービスの提供	○患者調査で「満足」と回答した割合(入院・外来別)の向上	3センター 入院 93%	1	3センター 入院 92.2%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応のため手術制限が生じる中、総合では、全国で5施設程度でしか導入されていないロボット支援下肝臓手術(R3:5件)や、TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)(R3:10件)を導入し、西和では、整形外科ナビゲーション手術(R3:30件)など最先端の高度専門的医療を提供し続けること等により、患者の身体的な負担の軽減、早期の社会復帰などに繋げ、患者にとって最適な医療の提供に尽くした。 ・診察(検査)の待ち時間について各センターとも年度計画で定めた指標内に収まってはいるものの、患者調査で診察待ち時間について「不満」と回答した割合が昨年に比べて大きく増加している(総合 R2:10.6%→R3:14.2%、西和 R2:8.6%→R3:15.9%、リハ R2:1.3%→R3:13.9%)ため患者満足度向上に取り組む必要がある。 ・患者アンケートの回収率アップ等、取り組みは実施されているため、引き続き今後も多角的な視点から患者サービスの向上に取り組む必要がある。 			
			3センター 外来 84%	2	3センター 外来 85.9%						
		・患者サービス向上委員会で検討し改善した件数の増加	総合 100件	3	総合 185件						
			西和 100件	4	西和 133件						
			総合 15%	5	総合 14.2%						
		・患者調査で診察待ち時間について「不満」と回答した割合の改善(低下)	西和 10%	6	西和 15.9%						
			リハ 1%	7	リハ 13.9%						
	○救急搬送受入率100%達成を目指す【総合・西和】		総合 97%	8	総合 88.9%						
			西和 70%	9	西和 65.3%						
	① 断らない救急医療の充実		・北和・西和地域における重症以上の傷病患者搬送事案において、医療機関の受入の照会を行った回数4回以上の割合の改善(低下)【総合・西和】	総合・西和 2%	10	総合・西和 4.5%	S		S	<ul style="list-style-type: none"> ・救急搬送事案の受入照会数については、第6波が大きく影響。コロナ新規感染者数に比例し年明け以降、北和西和地域で受入照会4回以上の回数が増加(R4.1~R4.3:11.56%)、令和3年度の全体の実績は4.5%と下がったが、12月末時点では2.0%を維持していた。 ・新型コロナウイルス感染症への対応により入院病床の逼迫や医療従事者の確保が難しい中でも、救急搬送患者の積極的な受入により、救急搬送受入率が総合で奈良・西和地域でトップ、総合・西和とも目標値の90%を超える実績を残した。 ・応需件数は総合、西和ともに前年度を上回っている(総合:R2:5,862件→R3:6,338件、西和 R2:2,170件→R3:2,282件)。 	
		② 質の高いがん医療の提供		○院内がん治療件数の増加(悪性新生物手術・外来化学療法【総合・西和】放射線治療【総合】)	総合 1,200件	11	総合 1,115件		A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症患者の受入を優先させたことにより手術の延期・制限を余儀なくされた中でも、総合・西和の悪性新生物手術件数(R2:1,535件→R3:1,627件)及び外来化学療法件数(R2:8,985件→10,163件)、がん治療における高難度手術の実施件数(R2:936件→R3:1,028件)は前年度を上回る実績を残し、質の高いがん医療を提供した。 ・総合では、新型コロナウイルス感染症への対応のため、臨時応急施設の設置によるがん相談室の事務所の移転で相談件数は目標に届かなかったが、西和は大幅に増加した(R2:89件→R3:152件)。 ・総合では、院内で緩和ケア研修会を開催し、西和では、疼痛及び不眠の緩和マニュアルの改訂などを行った。
	悪性新生物手術 西和 400件		12		西和 512件						
	外来化学療法 総合 7,500件		13	総合 9,369件							
	西和 800件		14	西和 794件							
	放射線治療 総合 12,000件		15	総合 12,824件							
	③ 周産期医療の充実	○ハイリスク妊婦の県内搬送率100%達成を目指す【総合】	総合 100%を目指す	17	総合 100%	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応により入院病床の逼迫や医療従事者の確保が難しい中でも、三次救急は断らないよう適切なベッドコントロールを実施。新型コロナウイルス感染症の妊婦を積極的に受け入れた。 ・ハイリスク妊婦及び新生児の県内搬送率については高い水準の維持に貢献し、ハイリスク妊婦の受入件数(R2:109件→R3:140件)及びNICU・GCUの受入件数(R2:4,431件→R3:5,738件)については、前年度を大きく上回る実績を残した。 		
			・ハイリスク分娩件数の増加【総合】	総合 140件	18					総合 140件	
			○新生児の県内搬送率100%達成を目指す【総合】	総合 100%を目指す	19					総合 97.7%	
	④ 小児医療の充実	○小児患者の救急搬送受入率100%達成を目指す【総合・西和】	総合 100%	20	総合 95.9%	A	A			<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対応により入院病床の逼迫や医療従事者の確保が難しい中、輪番担当回数の増加等により小児救急受入件数は前年度よりも大幅に増加(総合 R2:898件→R3:1,235件、西和 R2:478件→R3:730件)。 ・リハにおいて、早期からの診察待ちを改善するため、7月より小児科初診の完全予約制を導入。引き続き、県とともに小児科初診診察までの待機期間長期化に対する取組が必要である。 	
			西和 100%	21	西和 88.5%						
		・小児救急受入件数の増加【総合・西和】	総合 600件	22	総合 1,235件						
			西和 600件	23	西和 730件						

【県立病院機構 第2期中期目標】

大項目	中項目	目標	令和3年度目標 (年度計画)	番号	令和3年度 実績値	自己評価	県評価	県からのコメント			
I 患者にとって最適な医療の提供	⑤ 糖尿病医療の充実	○糖尿病医療に係る非専門医からの紹介件数の増加【総合・西和】	総合 180件 西和 50件	24	総合 198件	A	A	・糖尿病専門医による治療患者数は、総合(目標:5,000人→実績:6,415人)、西和(目標:550人→実績:662人)ともに大きく目標を上回り、糖尿病医療に係る非専門医からの紹介件数も、総合では目標を大きく上回った(目標:180件→実績:198件) ・西和では、週2回の糖尿病専門外来の開設や、糖尿病指導マニュアルの一部実用化をはじめ、医療機器の新規導入等、治療の推進を図った。また、退職により常勤の糖尿病医師が1名減となったが、非常勤医師を2名確保したため、医療の提供に大きな影響はない。			
		・糖尿病専門医の確保【総合・西和】	総合 1人 西和 1人	26	総合 1人						
		・糖尿病専門医による治療患者数の増加【総合・西和】	総合 5,000人 西和 550人	28	総合 6,415人						
	⑥ 精神医療の充実	○精神・身体合併症患者受入件数の増加【総合】	総合 75件	30	総合 49件				A	A	・新型コロナウイルス感染症患者受け入れのため、病床数を減らしたにも関わらず、精神・身体合併症患者受入件数は前年度と同水準を維持(R2:50件→R3:49件) ・精神科リエゾンチーム(医師・薬剤師・理学療法士・臨床心理士・看護師)を立ち上げ、週1回チームによる回診を実施するなど、精神医療の充実を図った。
		・精神科救急受入件数の増加【総合】	総合 15件	31	総合 11件						
	⑦ 感染症医療の充実	○感染症患者入院要請応需率100%の維持【総合】	総合 100%	32	総合 100%				S	S	・総合・西和ともに感染症専門医を1名確保し、新型コロナウイルス感染症の診療体制を強化し、入院患者を積極的に受け入れた。 ・総合ではドライブスルー外来の運営継続、臨時応急施設の確保、西和では、発熱外来クリニック等でのコロナ患者対応を充実させるなど、新型コロナウイルス感染症の診療体制の維持・強化を図り、県内医療機関の中心的な役割を担った。
		・緊急対応を常時想定した体制の強化【総合】	総合 体制の強化	33	総合 COVID-19感染症 マニュアル作成						
	3 リハビリテーション機能の充実	○急性期リハビリテーション実施件数の増加【総合・西和】	総合 70,000件 西和 61,500件	34	総合 76,373件				S	A	・リハでは、理学療法士の複数担当制を試行し、多職種連携を強化することでリハビリテーション機能の充実を図った。 ・総合では、人員確保のため、各種養成校の就職説明会等へ積極的に参加し、理学療法士5名、作業療法士1名、言語聴覚士1名を採用。 ・西和では、新型コロナウイルス陽性者へレッドゾーン内でのリハビリ提供体制を強化。 ・一方で、リハではADL(身の回りの必要最低限な活動)の評価方法の一つである機能的自立度評価法による得点が、生活の不活発化を原因とする心身の機能の低下がみられる患者の割合が多い関係で前年より低下。
			○機能的自立度評価法による得点の上昇(入院前後におけるADLの改善)【リハ】	リハ 28点	36						
		・在宅復帰率の高水準の維持・向上【総合・西和・リハ】	総合 95%	37	総合 92.4%						
			西和 94%	38	西和 93.1%						
			リハ 91%	39	リハ 92.9%						
		4 医療安全の確保・院内感染の防止	○患者調査で「安心して医療を受けられた」と回答した割合(入院・外来別)の向上	3センター 入院 93%	40	3センター 入院 92.1%	A	A			
	3センター 外来 86%			41	3センター 外来 89.5%						
	・医療安全確保のための体制強化と職員の意識向上		3センター 体制強化と意識向上	42	3センター 体制強化と意識向上						
	・院内感染防止のための体制強化と職員の意識向上		3センター 体制強化と意識向上	43	3センター 体制強化と意識向上						
	・入院患者のMRSA感染率の低下		総合 0.14%	44	総合 0.12%						
			西和 0.10%	45	西和 0.03%						
			リハ 0.18%	46	リハ 0.40%						
	5 西和医療センターのあり方の検討	○県と病院機構が連携して西和医療センターのあり方を検討	西和 県と連携した「あり方検討委員会」を設置し担うべき医療機能を検討	47	西和 県と連携した「あり方検討委員会」を設置し、担うべき医療機能を検討	A	A	・院内においてWGを設置し検討。運営検討会議にて基本構想(素案)を報告し、院内の連絡会においても周知した。 ・3センター間のメディカルソーシャルワーカー(MSW)の交流研修として、施設訪問(R2:0回→R3:2回)、リモート会議(R2:0回→R3:6回)開催。各センターの機能への理解促進に繋がり転院調整等が円滑に進んだ。			
		・西和医療センターと総合・リハ・他の医療機関との連携・役割分担の推進	西和 連携・役割分担の推進	48	西和 連携・役割分担の推進						

【県立病院機構 第2期中期目標】

大項目	中項目	目標	令和3年度目標 (年度計画)	番号	令和3年度 実績値	自己評価	県評価	県からのコメント	
II 地域の医療力 向上への貢献	1 地域の医療機関と の役割分担と連携 強化	○患者の紹介率(入院・外来別)の向上	入院	総合 50%	49	総合 35.1%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症患者の増加に伴う一般病床数の縮小により、紹介患者数のシーリングを行ったこと等で入院患者数が減少(総合 R2:133,238人→R3:131,827人、西和 R2:72,122人→R3:63,048人)。 ・定期来院患者の投薬において、院内感染防止のため医師の診察が電話などのリモートにて実施することが可能になったこと等が、紹介機会の減少の一因となった。 ・総合では、救急患者で入院が必要な軽症・中等症患者の転院をスムーズに行うための救急ネットワークのWEB運用を、引き続き実施。 ・西和では、地域の回復期リハビリ病院とリモートによる転院調整会議等を行うことで連携を強化し、患者の紹介率は新型コロナウイルス拡大により減少したものの、逆紹介率(入院)は目標を達成することができた。 ・リハでは、地域連携クリニカルパスの活用を進めた結果、適用件数が目標を上回った(目標:50件→実績:89件)。
			外来	西和 75%	52	西和 73.4%			
		・紹介患者数(入院・外来別)の増加	入院	総合 520人	53	総合 364人			
			外来	西和 700人	54	西和 330人			
		○患者の逆紹介率(入院・外来別)の向上	入院	総合 285%	57	総合 300.9%			
			外来	西和 300%	58	西和 316.0%			
		・逆紹介患者数(入院・外来別)の増加	入院	総合 80%	59	総合 99.0%			
			外来	西和 80%	60	西和 67.0%			
		・平均在院日数(一般病床)の短縮【総合・西和】	総合	総合 11.0日	65	総合 10.6日			
			西和	西和 11.5日	66	西和 11.2日			
		・地域医療連携のための会議の参加回数の増加	総合	総合 10回	67	総合 8回			
			西和	西和 12回	68	西和 27回			
			リハ	リハ 10回	69	リハ 9回			
		2 地域の医療機能の 向上のための支援	○教育研修センターにおける地域の医療従事者の資質 向上のための取組の充実【研修セ】	研修セ 実施	70	研修セ 実施			
				総合 300人	71	総合 150人			
			○地域の医療従事者に対する研修の受講者数の増加 【総合・西和・リハ】	西和 300人	72	西和 403人			
				リハ 60人	73	リハ 38人			
			○看護専門学校卒業生の県内就業率100%達成を目指す 【看専】	看専 90.0%	74	看専 83.1%			
			・医療従事者の短期・長期研修の受入数の増加	西和 6人	75	西和 4人			
	・地域の医療従事者に対する研修の実施回数の増加		総合 15回	76	総合 15回				
		西和 10回	77	西和 9回					
	3 災害医療体制の強 化	○関係機関や地域と連携した災害医療訓練の実施	総合 2回	79	総合 2回				
			西和 3回	80	西和 3回				
			リハ 2回	81	リハ 2回				
		・DMATチーム数の増加【総合・西和】	総合 4チーム	82	総合 3チーム				
			西和 2チーム	83	西和 1チーム				
	4 県民への医療・健 康情報等の提供	○公開講座受講者調査で「有意義だった」と回答した割 合の向上【総合・西和・リハ】	総合 現状把握	84	(総合 今年度開催中止)				
			西和 90%	85	(西和 今年度開催中止)				
			リハ 90%	86	(リハ 今年度開催中止)				
		・県民向け公開講座の受講者数の増加 【総合・西和・リハ】	総合 実施方法変更による 影響を把握	87	(総合 今年度開催中止)				
			西和 100人	88	(西和 今年度開催中止)				
		・経営状況や臨床指標、各病院の医療機能などの「見え る化」の推進	リハ 50人	89	(リハ 今年度開催中止)				
			3センター 積極的な 広報	90	3センター 積極的な広報				

【県立病院機構 第2期中期目標】

大項目	中項目	目標	令和3年度目標 (年度計画)	番号	令和3年度 実績値	自己評価	県評価	県からのコメント
Ⅲ 最高レベルの医の心と技をもった人材の確保・育成	1 最高レベルの医の心をもった人材の確保・育成	○患者調査で「患者の気持ちを理解しよう」と回答した割合(入院・外来別)100%達成を目指す	3センター 入院 95%	91	3センター 入院 90.4%	A	A	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は中止としたホスピタリティ研修について、感染状況を鑑みながら開催。人と人の距離を確保することで感染防止対策を十分に実施したこと、参加人数は目標に達しなかったが、コロナ禍において最大限の努力をしたといえる。 ・研修後のアンケートでは受講者の98%が「自身のホスピタリティ向上に役立った」と回答する満足度の高い研修を実施させた。 ・職位別研修を録画配信する等前年度よりも開催実績を大幅に増加した(R2:2回→R3:11回)。コロナ禍においても人材育成に積極的に取り組んだ。
		・ホスピタリティ研修の参加人数の増加	3センター 外来 85%	92	3センター 外来 86.4%			
			研修セ 300名	93	研修セ 200人			
		・ホスピタリティ研修後受講者アンケートで「自身のホスピタリティ向上に役立った」と回答した割合の向上	研修セ 75%	94	研修セ 98%			
	2 最高レベルの医の技をもった人材の確保・育成	○専門医数の増加	3センター 専門医 334人	95	3センター 専門医 396人→400人	A	A	・研修センターでは、令和3年から看護師の特定行為研修を開講し5名が修了した。 ・総合、西和とも初期臨床研修医マッチ率は3年連続フルマッチング、看護師国家試験合格率の高水準の維持から、人材育成が図られた。 ・認定資格等を取得した看護師が3センターとも前年より増加。専門性の高い知識を身につけた職員が増えることで、医療現場でより質の高い看護ケアが見込めるようになった。
		○専門(又は認定)看護師数の増加	3センター 専門(又は認定)看護師 39人	96	3センター 専門(又は認定)看護師 35人			
		・初期臨床研修医マッチ率の向上	総合・西和 100%	97	総合・西和 100%			
		・専攻医数の維持	3センター 68人	98	3センター 59人			
		○看護専門学校現役卒業生の看護師国家試験合格率100%の維持	看専 100%	99	看専 98.5%			
		・特定行為研修受講者数の増加	3センター 8人	100	3センター 12人			
	3 働き方改革の推進	○職員調査で「仕事にやりがいを感じている」と回答した割合の向上	法人全体 65%以上	101	法人全体 55.7%	A	A	・総合では、働き方改革実行プロジェクト委員会において、超過勤務時間を時系列で確認、年休や夏期級休暇の計画的な取得に向け各所属で進捗管理して等働き方改革への取組を実施。また西和でも働き方委員会において、残業・有休取得状況の管理等、働き方改革への取組を実施。結果として、コロナ禍により業務量が増加したが、大幅に超過勤務が増加することはなかった。 ・一方で、コロナ禍による業務の拡大が影響し、「ワークライフバランスが図れている」と回答した職員の割合は、目標を達成できなかった。 ・西和、リハでは、令和4年4月からの勤怠管理システム運用に向け試験運用等を実施。引き続き超過勤務縮減に向けた取組みを進める必要がある。 ・取得制度の周知等により「男性の育児休業取得率」が大幅に向上。引き続き多角的な視点からワークライフバランスの推進に取り組む必要がある。 ・障害者雇用率は国が定める法定雇用率2.6%に届かなかったが、院内での新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、来院者の制限を行ったことによる病院見学の回数減少が影響している。 ・法人本部に専任の職員を配置し、ハローワーク奈良、奈良障害者職業センターの協力のもと、令和3年6月～令和4年2月の間に7名を追加雇用した。すべての事業主に法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務があることから、引き続き雇入れ計画の策定など多様な取組を継続する必要がある。
		・職員調査で「ワークライフバランスが図れている」と回答した割合の向上	法人全体 60%以上	102	法人全体 49.2%			
		・男性の育児休業取得率の向上	法人全体 2人以上	103	法人全体 9人			
・年次有給休暇取得日数の増加		総合 8日 西和 7日 リハ 10日	104 105 106	総合 11.0日 西和 9.3日 リハ 9.1日				
・復職支援実習の参加人数の増加		3センター 2人	107	3センター 0人				
・看護師在職率の維持		3センター 離職率 10%	108	3センター 離職率 6.63%				
・超過勤務の縮減		法人全体 医師 月27時間	総合 29.0 西和 26.0 リハ 2.0	109	法人全体 30.5時間 総合 36.0 西和 29.5 リハ 4.1			
		法人全体 看護師 月9時間	総合 11.0 西和 10.0 リハ 7.0	110	法人全体 13.3時間 総合 13.7 西和 13.7 リハ 9.1			
		法人全体 その他医療従事者 月10時間	総合 16.0 西和 16.0 リハ 9.0	111	法人全体 10.4時間 総合 11.1 西和 8.5 リハ 13.6			
		法人全体 事務 月18時間	総合 20.0 西和 22.0 リハ 9.0	112	法人全体 19.3時間 総合 12.5 西和 23.9 リハ 17.4			
○障害者雇用率の向上		法人全体 2.6%以上	113	法人全体 2.38%				

【県立病院機構 第2期中期目標】

大項目	中項目	目標	令和3年度目標 (年度計画)	番号	令和3年度 実績値	自己評価	県評価	県からのコメント
IV 自立した法人経営	1 権限と責任を明確にしたガバナンス体制の確立	○第2期中期目標に掲げる目標の達成	法人全体 目標達成に向けた各種取組の実施	114	法人全体 目標達成に向けた各種取組の実施	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・病床確保など新型コロナ対策に係る県からの要請に応じ、入院病床数を迅速に確保し、特に重症者、妊婦や透析患者を積極的に受入れてきた。さらに臨時的応急収容施設の設置に協力するなど、県内の新型コロナ体制の確保に大きく貢献した。 ・コロナ対応を第1優先に尽力していた結果、職員の中期目標・中期計画の理解度を高めるところまでに至らなかった。 ・「職員の中期目標・中期計画の理解度100%を目指す」ことについて、職員アンケート内での「法人の理念・中期目標のとおりに行動している」と回答した職員の割合は48.2%にとどまった(R2:61.3%→R3:48.2%)。 ・来年度に第2期中期目標の最終年度を迎え、目標達成に向かっていくためにも職員の法人理念・中期目標への理解は必要である。あらゆる機会を通して職員の理解を深めるとともに、職員の理解度の把握に努める必要がある。
		・職員の中期目標・中期計画の理解度100%を目指す	法人全体 70%	115	法人全体 48.2%			
	2 持続可能な経営基盤の確立 ① 財務内容の改善	○経常収支比率の改善(上昇)	3センター 98.4%	116	3センター 105.7%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高度医療の増加等による材料費の上昇や、職員数の増加、働き方改革への対応による給与費の増加等により医業費用は前年に比べ増加(R2:346億円→R3:362億円)したものの、適切な転院調整により病床を確保したことや入院単価の上昇により入院収益は増加(R2:183億円→R3:186億円)。外来患者数の増加等により、外来収益も増加(R2:83億円→R3:93億円)。持続可能な経営基盤の確立に向け本業で稼ぐ力を伸ばす取組を継続していただきたい。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により一般病床数が制限されていたにも関わらず21.4億円の黒字を計上し繰越欠損金の縮減に繋がった。今後も一層の収益確保と費用削減に取り組む必要がある。 <p>※コロナ関連の補助金は医業収益には含まれていない</p>
		・繰越欠損金の縮減	本部 153.5億円	117	本部 110.6億円			
			総合 74.3%	118	総合 89.0%			
		・医業収支比率の改善(上昇) [医業収益/医業費用]	西和 74.9%	119	西和 82.0%			
			リハ 93.4%	120	リハ 94.0%			
			総合 40.7% 西和 29.5% リハ 10.1%	121 122 123	総合 35.0% 西和 26.1% リハ 10.1%			
	② 収益の確保と費用構造改革の徹底	○医業収益に対する材料費比率の改善(低下)	総合 59.1% 西和 70.9% リハ 72.5%	124 125 126	総合 54.8% 西和 70.3% リハ 79.9%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各センターで月次ごとに経営指標指標を分析し、職員への周知を行った、また、本部主導の下、指標等に基づき「月次評価会議」を引き続き開催。各センターの課題・問題点について、深く議論し、改善に繋がる具体的な方策を決定・実行する仕組みを構築した。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、総合、西和では一般病床を制限したことから、入院患者数は目標に達しなかったが、ベッドコントロールを適切に行ったことなどにより、入院単価が目標を大きく上回った(総合 目標:74,909円→実績92,212円、西和 目標:67,563円→実績:83,117円)こと等が、給与比率及び経費比率の改善に繋がっている。 ・一方、1日あたり外来患者数は、3センターとも昨年を概ね上回り(総合R2:1,121人→R3:1,224人、西和R2:561人→R3:606人、リハR2:194人→R3:194人)、外来単価についても、3センターとも目標を上回った。
		・医業収益に対する職員給与費比率の改善(低下) [職員給与費/医業収益]	総合 21.8% 西和 24.3% リハ 18.0%	127 128 129	総合 17.4% 西和 23.0% リハ 19.3%			
		・医業収益に対する経費比率の改善(低下)	総合 94.5% 西和 95%	130 131	総合 93.4% 西和 94.1%			
		・後発医薬品の使用割合の高水準の維持	総合 477床	132	総合 466床			
		・地域の医療機関との連携を図りつつ、経営状況に応じて計画的に稼働病床を増加【総合】						
	3 経営感覚・改革意欲に富んだ人材の確保・育成	○事務部門におけるプロパー職員の割合の向上	本部 70%	133	本部 72%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性の高い職員を確保。育成するため、積極的にプロパー職員を採用した結果、事務部門におけるプロパー職員の割合が年々増加し目標値を上回った。 ・経営・業務改善に向けた職員提案により、業務継続計画、新型コロナウイルス感染症対応マニュアル等の見直しを実施した。 ・ニュースレター等のツールを積極的に用いて経営情報等の共有と経営参画意識の向上に引き続き取り組む必要がある(ニュースレター発行回数 指標4回→実績2回) ・引き続き経営参画意識の向上に努め、経営感覚・改革意欲に富んだ人材確保、育成が必要。
		・経営改善・業務改善に向けた職員提案件数の増加	法人全体 4件以上	134	法人全体 10件			